



取り組み 紹介

第4回 むすびプロジェクト研修会

看護師が同行する家屋調査から 退院後の生活支援を考える



◀ 小林多絵 副師長(看護師)
原宿リハビリテーション病院
関東KG回復期リハビリテーション委員会

R7年2月17日、原宿リハビリテーション病院にて
第4回むすびプロジェクト研修会が開催されました。
総勢1000名のグループ病院職員が集い
退院後の生活を考える機会になりました。

原宿リハの職員が
対面で参加しました



★看護師の家屋調査時の視点

第4回むすびプロジェクト研修会
2025年2月17日(月)

看護師が同行する家屋調査から
退院後の生活支援を考える



関東KG回復期リハビリテーション委員会
原宿リハビリテーション病院 看護師 小林 多絵

小林副師長の講演での家屋調査の目的は『患者・家族が退院後、
自宅で安心して生活できる』ことであり、今回は看護師の視点につ
いてお話をいただきました。

看護師の視点として以下の4つを挙げていました。

①生活環境 ②排泄状況 ③夜間の状況(睡眠・動作)
④医療に関する視点の4つを意識して取り組む必要があること
を学びました。私たちの支援は個別性があり、対応力が必要であ
ると感じました。退院後の生活支援について考える機会となりまし
た。

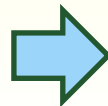
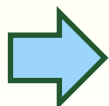
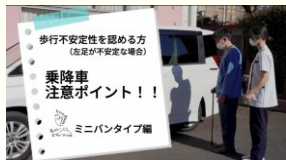
★過去最多の参加者に生活支援についての 注目度の高さを実感

今回の勉強会は看護部、連携室、リハビリテーション科
を対象に実施しました。
様々な職種の職員が参加されました

【内訳】リハビリ科622人、看護部306人、連携室72人
退院後の生活支援は決して単一職種では解決できないこ
とであり、多角的な視点で考えることの大切さを、あらため
て学びました。

看護師が同行する家屋調査の実施は、退院後の生活支援を考
えるうえで、リハビリだけではなく、看護師の視点があり、退院後
の生活に向けて、病棟生活の中で自宅生活できるように必要
動作を実際に行うことや目標の設定に役立つと思いました。
今回参加できなかった職員の皆さんも、患者さんの生活支援を
多職種でより深く考えるために可能であれば実際にご自宅訪問
することができると良いと思います。

2月・3月 LINE配信内容



むすびの活動 NOW

4月以降 『心の交流会』
グループ全体に運営拡大予定

8月以降 復職・就労支援
代表コーディネーター意見交換会 企画中

編集後記

今回は第4回むすびプロジェクト研修会について特集させていただきました。私自
身が退院後のリハビリテーションに携わる中で、入院中から退院後の生活支援を
考える必要性を感じております。今回、看護師視点での家屋調査について講演を
聞く機会を得て、とても勉強になりました。今回は過去最大数の方に参加してい
たことで、たくさんの方から好評の声をいただき主催側スタッフとしても励みになりま
した！このような機会を再び皆様にお届けできる様、これからも及ばずながら尽力
していきます。

小金井リハビリテーション病院 作業療法士 村上直也

